

浜松医科大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。静岡県は全国でも医師数が少ない地域であるが、麻酔蘇生学は特に不足している分野でもある。科学的な思考ができる科学者としての麻酔科医を効率よく養成することを目的としてプログラムを作成した。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

麻酔科医の仕事は多岐に渡っており、また幅広い年齢層が対象となる。そのため、様々な知識を幅広く習得するには十分なトレーニングが受けられる施設での研修が必須である。本研修プログラムでは、研修を受ける専攻医の幅広いニーズに応えるべくコースを策定し、どのコースでも必要十分な知識および技術を得られるように考慮した。専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

専門医に必要な知識／技術が得られるようなローテーションを考慮して後述のようにいくつかのモデルプログラムを作成した。プログラムの選択に際しては最終的には本人の将来を鑑み、研修施設やローテーションの順番について各々の希望や特性に合

わせてきめ細かく配慮する。

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、専門研修基幹施設（大学病院）で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。心臓手術は基幹施設である大学病院の他、静岡県立総合病院、静岡市立静岡病院、聖隷三方原病院、浜松医療センター等、いくつかの施設で研修可能である。また小児症例は大学および静岡県立こども病院での研修になる。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、それぞれの興味や希望に合わせていくつかのローテーションの例を示す。小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B）、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C）、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションを作制した。前述の通り、ある程度希望に応じてローテーションする病院の順番や指向については相談の上決定する。
- 地域医療の維持のため、最低でも1年以上は地域医療支援病院である県内の連携病院で研修を行う。現在連携している病院麻酔科の中にはペインクリニック等も経験できる病院も存在するので、ローテーションの際には希望を伝えてもらってよい。

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児コース）	C（ペイン指向）	D（集中治療指向）
初年度 前期	本院	本院	本院	本院
初年度 後期	本院	本院	本院	本院
2年度 前期	本院／県内連携病院	県内連携病院	本院／県内連携病院	県内連携病院
2年度 後期	静岡県立総合病院 （時期は変更可）	県内連携病院	県内連携病院	県内連携病院
3年度 前期	静岡こども病院 （時期は変更可）	静岡県立総合病院 （時期は変更可）	県内連携病院	本院（集中治療）

3年度 後期	県内連携病院	静岡こども病院 (時期は変更可)	本院 (ペイン)	本院 (集中治療)
4年度 前期	県内連携病院	静岡こども病院	本院 (ペイン)	静岡県立総合病院
4年度 後期	本院 (ペイン集中 治療等選択可)	本院 (ペイン集中 治療等選択可)	本院 (ペイン集 中治療等選択 可)	本院 (ペイン集中 治療等選択可)

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

① 専門研修基幹施設

浜松医科大学医学部附属病院 (以下, 浜松医科大学本院)

研修プログラム統括責任者: 中島芳樹

専門研修指導医: 中島芳樹 (麻酔, 小児麻酔, 産科麻酔, 心臓血管麻酔)

加藤孝澄 (麻酔, 心臓血管麻酔, ペインクリニック)

五十嵐 寛 (麻酔, 医学教育, ペインクリニック)

土井松幸 (麻酔, 集中治療)

栗田忠代士 (麻酔, 胸部外科麻酔, マネジメント)

鈴木 明 (麻酔, 医療安全管理)

牧野 洋 (麻酔)

御室総一郎 (麻酔, 集中治療)

小幡由佳子 (麻酔, 集中治療)

秋永智永子 (麻酔, 産科麻酔)

谷口美づき (麻酔, 産科麻酔, ペインクリニック)

八木原正浩 (麻酔, 小児麻酔)

専門医 木村哲朗 (麻酔, ペインクリニック)

川島信吾 (麻酔, 心臓血管麻酔)

成瀬 智 (麻酔, 産科麻酔)

加藤弘美 (麻酔, 集中治療)

植田 広 (麻酔)

内崎紗貴子 (麻酔, 産科麻酔)

柳 由紀 (麻酔)

鈴木興太 (麻酔)

朝比奈 瞳 (麻酔)

小林賢輔（麻醉）

認定病院番号 158

特徴：ペインクリニック，集中治療のローテーション可能

麻醉科管理症例数 4,410症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	80症例
帝王切開術の麻醉	100症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	100 症例
胸部外科手術の麻醉	100 症例
脳神経外科手術の麻醉	100症例

② 専門研修連携施設A

1. 静岡県立総合病院（以下，静岡県立総合病院）

研修実施責任者：横山順一郎

専門研修指導医：横山順一郎（麻醉，ペインクリニック）

渥美和之（麻醉）

藤井俊輔（麻醉）

青嶋由紀江（麻醉）

森本恵理子（麻醉）

高良麻紀子（麻醉）

柳田京子（麻醉）

専門医

青木善孝（麻醉、集中治療）

中右麟太郎（麻醉）

認定施設番号 274

特徴：集中治療のローテーション可能，ペインクリニックも可

麻醉科管理症例数 4,003症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	20症例
帝王切開術の麻醉	50症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	50 症例
胸部外科手術の麻醉	50 症例

脳神経外科手術の麻酔	50症例
------------	------

2. 聖隷三方原病院（以下、聖隷三方原病院）

研修実施責任者：高田知季

専門研修指導医：高田知季（麻酔、ペインクリニック）

金丸哲也（麻酔、ペインクリニック）

赤池達正（麻酔）

加藤 茂（麻酔）

藤本久実子（麻酔）

杉浦弥栄子（麻酔）

三村真一郎（麻酔、心臓麻酔）

認定病院番号 378

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 3,086症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	5症例
帝王切開術の麻酔	1症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	18 症例
胸部外科手術の麻酔	35 症例
脳神経外科手術の麻酔	12症例

3. 浜松医療センター（以下、浜松医療センター）

研修実施責任者：永田洋一

専門研修指導医：永田洋一（麻酔）

専門医 高木佑芙紀（麻酔）

高田和典（麻酔）

認定病院番号 186

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 2,090症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	34症例
帝王切開術の麻酔	18症例
心臓血管手術の麻酔	52 症例

(胸部大動脈手術を含む)	
胸部外科手術の麻酔	31 症例
脳神経外科手術の麻酔	39症例

4. 静岡市立静岡病院 (以下, 静岡市立静岡病院)

研修実施責任者: 望月利昭

専門研修指導医: 望月利昭 (麻酔, 救急、集中治療)

綾部裕子 (麻酔)

公平順子 (麻酔)

認定病院番号 487

特徴: 心臓手術が多く、TAVIやDa Vinciなど最先端の手術麻酔の修得が可能

麻酔科管理症例数 1,916症例

	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	14症例
帝王切開術の麻酔	34症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	50 症例
胸部外科手術の麻酔	81 症例
脳神経外科手術の麻酔	53症例

5. 藤枝市立総合病院 (以下, 藤枝市立総合病院)

研修実施責任者: 白石義人

専門研修指導医: 白石義人 (麻酔, ペインクリニック、集中治療)

高橋健二 (麻酔、ペインクリニック)

酒井宏明 (麻酔)

専門医 山口裕充 (麻酔)

認定病院番号 463

特徴: 救命センターおよび集中治療での研修も可能

麻酔科管理症例数 2,145症例

	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	61症例
帝王切開術の麻酔	86症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	69 症例

胸部外科手術の麻酔	84 症例
脳神経外科手術の麻酔	25症例

6. 中東遠総合医療センター（以下、中東遠総合医療センター）

研修実施責任者：山本洋子

専門研修指導医：山本洋子（麻酔、ペインクリニック）

内山智浩（麻酔、ペインクリニック）

専門医 秋永広嗣（麻酔）

鈴木みどり（麻酔）

平出恵理（麻酔）

認定病院番号 1625

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 2,247症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	50症例
帝王切開術の麻酔	120症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	20 症例
脳神経外科手術の麻酔	110症例

7. 磐田市立総合病院（以下、磐田市立総合病院）

研修実施責任者：高橋 浩

専門研修指導医：高橋 浩（麻酔、ペインクリニック）

山口昌一（麻酔）

専門医 小林 充（麻酔）

認定病院番号 873

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 2,145症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	61症例
帝王切開術の麻酔	86症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	69 症例

胸部外科手術の麻酔	84 症例
脳神経外科手術の麻酔	25症例

8. JA静岡厚生連 遠州病院（以下，遠州病院）

研修実施責任者：八角康裕

専門研修指導医：八角康裕（麻酔）

浦岡雅博（麻酔）

鈴木かつみ（麻酔）

認定病院番号 1310

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 1,400症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20症例
帝王切開術の麻酔	80症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	30症例

9. 労働者健康福祉機構 浜松労災病院（以下，労災病院）

研修実施責任者：木倉睦人

専門研修指導医：木倉睦人（麻酔、心臓麻酔）

専門医 西野淳子（麻酔，ペインクリニック）

認定病院番号 1394

特徴：心臓麻酔の管理を学習可能

麻酔科管理症例数 795症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20 症例
胸部外科手術の麻酔	3 症例
脳神経外科手術の麻酔	10症例

10. 浜松赤十字病院（以下、浜松日赤病院）

研修実施責任者：小幡良次

専門研修指導医：小幡良次（麻酔）

専門医 高田浩太郎（麻酔）

堀 悦代（麻酔）

認定病院番号 1389

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 781症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	4症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	8 症例
脳神経外科手術の麻酔	3症例

11. 静岡県立静岡がんセンター（以下、県立がんセンター）

研修実施責任者：玉井 直

専門研修指導医：安藤憲興（麻酔）

江間義朗（麻酔）

竹口有美（麻酔）

専門医 細井卓司（麻酔）

山下麻子（麻酔）

認定病院番号 972

特徴：様々な癌／腫瘍性疾患の麻酔管理が可能

麻酔科管理症例数 3,513症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	25 症例
脳神経外科手術の麻酔	10症例

12. 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター（以下、静岡医療センター）

研修実施責任者：小澤章子

専門研修指導医：小澤章子（麻酔）

今津康宏（麻酔）

認定病院番号 866

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 1,627症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	15 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

13. JA愛知厚生連 豊田厚生病院（以下、豊田厚生病院）

研修実施責任者：上原博和

専門研修指導医：上原博和（麻酔）

小島康裕（麻酔）

認定病院番号 1389

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 2,172症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	10症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10 症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	10症例

14. 菊川市立総合病院（以下、菊川市立総合病院）

研修実施責任者：木村 健

専門研修指導医：木村 健（麻酔）

認定病院番号 1527

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数 782症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	2症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	1 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

③ 専門研修連携施設B

1. 静岡県立こども病院（以下、こども病院）

研修実施責任者：奥山克巳

専門研修指導医：奥山克巳（小児麻酔、集中治療）

梶田博史（小児麻酔）

専門医 渡邊朝香（小児麻酔）

石田千鶴（小児麻酔）

波多野俊之（小児麻酔）

認定病院番号：183

特徴：地域における小児医療の中心施設

麻酔科管理症例数 2,724症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	150症例
帝王切開術の麻酔	15症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	30症例
胸部外科手術の麻酔	2 症例
脳神経外科手術の麻酔	20症例

2. 富士宮市立病院（以下、富士宮市立病院）

研修実施責任者：石井康博

専門研修指導医：石井康博（麻酔）

認定病院番号：1669

特徴：地域における医療の中心施設

麻酔科管理症例数 1,038症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	45症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	15 症例
脳神経外科手術の麻酔	15症例

3. 静岡市立清水病院（以下、静岡市立清水病院）

研修実施責任者：森脇五六

専門研修指導医：森脇五六（麻酔）

認定病院番号：1331

特徴：地域における医療の中心施設

麻酔科管理症例数 464症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	6症例
帝王切開術の麻酔	18症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	1症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	50症例

4. 静岡赤十字病院（以下、静岡日赤病院）

研修実施責任者：飯塚浩基

専門研修指導医：飯塚浩基（麻酔、ペインクリニック）

坂梨真木子（麻酔）

渡邊 薫（麻酔）

専門医 航 尚子（麻酔）

齊藤公紹（麻酔）

認定病院番号：920

特徴：地域における整形外科（脊椎センター、外傷）の中心施設

麻酔科管理症例数 3,257症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	50症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20症例
胸部外科手術の麻酔	20 症例
脳神経外科手術の麻酔	30症例

5. すずかけセントラル病院（以下、すずかけセントラル病院）

研修実施責任者：佐藤重仁

専門研修指導医：佐藤重仁（麻酔、ペインクリニック）

専門医 佐藤恒久（麻酔）

認定病院番号：1769

特徴：地域における医療の中心施設

麻酔科管理症例数 375症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	5 症例
脳神経外科手術の麻酔	50症例

6. 焼津市立総合病院（以下、焼津市立総合病院）

研修実施責任者：岡村 誠

専門研修指導医：岡村 誠（麻酔）

認定病院番号：1777

特徴：地域における医療の中心施設

麻酔科管理症例数 2,782症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	16症例
帝王切開術の麻酔	70症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例

胸部外科手術の麻酔	13 症例
脳神経外科手術の麻酔	40症例

5. 募集定員

15名

(*募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない)

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2016年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、浜松医科大学麻酔科専門研修プログラム website, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

浜松医科大学医学部附属病院 麻酔・蘇生学講座 教授 中島芳樹

静岡県浜松市東区半田山1-20-1

TEL 053-435-2738

E-mail nakayos@hama-med.ac.jp

Website <http://www.anesth.hama-med.ac.jp/AneDepartment/>

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域（心臓血管麻酔、産科麻酔、小児麻酔、ペインクリニック、集中治療等）の専門研修、国内外施設

への留学を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**専門知識**、**専門技能**、**学問的姿勢**、**医師としての倫理性と社会性**に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**経験すべき疾患・病態**、**経験すべき診療・検査**、**経験すべき麻酔症例**、**学術活動**の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1-2 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。さらに全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができることを目標とする。その後、修得度に応じて心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、幅広い技術／知識を習得する。

専門研修 3 年目

さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修 4 年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての静岡県立総合病院、静岡県立こども病院、聖隷三方原病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。